

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	熊本と龍南：詩歌
Author(s)	故 夏目，漱石
Citation	龍南， 2 0 0： 1 4 1 - 1 4 3
Issue date	1926-12-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8922">http://hdl.handle.net/2298/8922</a>
Right	

## 熊本と龍南

故夏  
目漱石

颯と打つ夜綱の音や春の川（白川）  
永き日を太鼓打つ手のぬるむなり（本妙寺）  
湧くからに流るこからに春の水（水前寺）  
しめ縄や春の水湧く水前寺（全）  
上書津や青き水葉に白き蝶（書津湖）  
禰宜の子の烏帽子ついたり藤の花（藤崎八幡）  
春の夜のしば笛を吹く書生哉（明午橋）  
若葉して手のひらほどの山の寺（成道寺）  
海を見て十歩に足らぬ畑を打つ（花岡山）

### 熊本高等學校秋季雜咏

いかめしき門を這入れば蕎麥の花（學校）  
粟みのる畑を借して敷地なり（全）  
松を出てまばゆくぞある露の原（運動場）  
韋編断えて夜寒の倉に束ぬたる（圖書館）

秋はふみ吾に天下の志(全)  
頓首して新酒門内に許されず(習學寮)  
朝寒と申し襦袢の贈物(全)  
孔孟の道貧ならず稻の花(環邦館)  
古ぼけし油繪をかけ秋の蝶(全)  
赤きもの少しは參れ蕃椒(倫理講話)  
かしこまる膝のあたりやそぞろ寒(全)  
朝寒の顔を揃へし机かな(教室)  
先生の疎霧を吹くや秋の風(全)  
苔青く末枯るゝべきものなし(全)  
南窓に寫眞を焼くや赤蜻蛉(物理室)  
暗室や心得たりときりぎりす(全)  
化學とは花火を造る術ならん(化學室)  
玻璃瓶に糸瓜の水や二升程(全)  
剝製の鴉鳴かなくに晝淋し(動物室)  
獎憎や圖を排して茸の飯(食堂)  
大食を上座に栗の飯黄なり(全)  
瓜西瓜富婁那ならぬなかりけり(演說會)  
就中うましと思ふ柿と栗(全)

稻妻の目にも留らぬ勝負哉（擊劍會）  
容赦なく瓢を叩く糸瓜かな（全）  
轉げし芋の鳥渡起き直る健氣さよ（柔道試合）  
靡けども芝を倒し能はざる（全）

北千反畑に轉居して四句

菜の花の隣もありて竹の垣  
鶯も柳も青き住居かな  
新しき疊に寝たり宵の春  
春の雨鍋と釜とを運びけり